

九州保健福祉大学

令和2年度
健康管理センター活動報告書



九州保健福祉大学 健康管理センター

はじめに

従来、健康管理センターは学生相談業務のみを担当していましたが、平成19年度より保健業務を加えることにより、学生相談室と保健室の2室構成となり、学生の心身の健康問題に総合的に対処できるようになりました。また、令和3年1月より、学生のメンタルヘルスへの支援・相談体制を充実させるために、専門的な相談業務を行うことができるアルバイト職員が配置されました。

教職員のみなさまには特定検診事業にご協力いただき感謝申し上げます。

わたしがまだ研修医のころ、新生児の呼吸器管理のテキストに「フリップフラップ **flip-flap** をしてはいけません」という記載がありました。**flip-flap (flop)**とは、患児の呼吸状態が少しよくなったなら人工呼吸器の設定を下げ、おっと下げすぎた、今度は上げよう、上げすぎた、下げよう、こんなことを頻繁に行うと、やがて赤ちゃんの状態が悪化して取り返しがつかなくなってしまうことです。

若干意味合いが異なりますが、イソップ寓話の「ずるいきつね」(狐の肉分け)に似ています。2匹の猫が食べ物(拾った肉)の取り合いをしている。そこへ狐が現れ、その食べ物を2つに分け、公平に分けようとする。しかし、片方が大きいことに気付き大きい方を少し食べる。すると反対が大きくなる。再び大きい方を食べる。それを繰り返し、しまいには全部を狐が食べてしまう。

ビーチサンダルを履いて歩く時には、ゴム底が足の裏に付いたり離れたりします。その時のパタパタ鳴る音を英語で **flip-flop** というので、ビーチサンダルも **flip-flop** と呼ばれるようになりました。しかし、ビーチサンダルのゴム底が足の裏に付いたり離れたりするように、意見があちらこちらに行くことも **flip-flop** と呼びます。特に何度も意見を変えることは **flip-flopping** と呼ばれています。

コロナワクチン接種部位に磁石がくっ付いた。少しは自分で判断しましょう。明らかなデマです。どこそこモデル、今はなになにレベル。もう辟易です。こうなったらカルタで遊びましょう。使うのは「いろはかるた」です。「色は匂へど散りぬるを、我が世誰ぞ常ならむ、有為(うい)の奥山 今日越えて、浅き夢見し酔(ゑ)ひもせず」(涅槃経)という仏教精神を和文で表わしたと言われる「いろは歌」47文字と、「京」を合わせた48文字を、句の頭において作った短歌のかるたです。

犬も歩けばコロナに当たる(一を聞いてコロナを知る、一寸先はコロナ)、論よりコロナ(論語読みのコロナ知らず)、花よりコロナ(針の穴からコロナ

をのぞく)、憎まれっ子コロナにはばかり(二階からコロナ)、骨折り損のくたびれコロナ(仏のコロナも三度)、下手の長コロナ(屁をひってコロナつばめ)、灯台コロナ暗し(年寄りの冷やコロナ、豆腐にコロナ)、ちりも積もればコロナとなる(地獄の沙汰もコロナ次第)、律儀者のコロナ沢山、盗人のコロナ(糠にコロナ)、瑠璃もコロナも照せば光る(類はコロナを呼ぶ)、老いてはコロナに従え、笑う門にはコロナ来たる(割れ鍋にとじコロナ)、可愛い子にはコロナをさせ(蛙のつらにコロナ)、葦のずいからコロナのぞく(夜目遠目傘のコロナ)、旅は道連れコロナは情け(立板にコロナ)、れう薬(良薬)はコロナに苦し(礼儀も過ぎればコロナになる)、損をしてコロナをとれ(惣領のコロナ、袖振り合うも他生のコロナ)、綴れを着ても心はコロナ(爪にコロナをともす)、念にはコロナを入れよ(猫にコロナ、寝耳にコロナ)、泣き面にコロナ(習わぬコロナは読めぬ)、楽あればコロナあり(来年のことを言えばコロナが笑う)、無理が通ればコロナ引っ込む(むま=馬の耳にコロナ)、嘘から出たコロナ(氏よりコロナ)、井の中の蛙コロナを知らず(鰯の頭も信心から)、喉元過ぎれば熱さ忘るる、鬼に金棒、臭い物に蓋(果報は寝てコロナ)、安物買いのコロナ失い(闇夜にコロナ)、負けるはコロナ(待てば甘露のコロナあり、まかぬコロナは生えぬ)、芸はコロナを助くる、河豚は食いたしコロナは惜しい(武士は食わねど高コロナ)、転ばぬ先のコロナ(子はコロナの首っ枷)、得意にコロナを揚げる(縁の下のコロナ持ち)、出るコロナは打たる(亭主の好きな赤コロナ)、頭隠してコロナ隠さず(阿呆につけるコロナがない、足の下からコロナが立つ)、猿もコロナから落ちる(さわらぬコロナにたたりなし)、聞くは当座のコロナ(聞いて極楽見てコロナ、義理とコロナかかねばならぬ)、油断大コロナ、目の上のコロナ、身から出たコロナ、知らぬがコロナ、縁の下のコロナ持ち(縁は異なるものコロナなもの)、貧乏コロナなし(ひょうたんからコロナ)、門前の小僧習わぬコロナを読む(桃栗三年柿コロナ年、餅はコロナ屋)、背にコロナはかえられぬ、好きこそコロナの上手なれ(雀百までコロナ忘れず)、京の夢コロナの夢。

このコロナ騒動が終わったあとの世界はいったいどんな世界なのか。以前の世界に戻るのでしょうか。あるいはそれは今まで私たちが想像もしなかったような未知の世界なのでしょうか。

感染の予防は、「感染者に近づかない」ことに尽きます。

最後にクイズです。おじいちゃん猟師は、ツルと間違っつてワシを助けてしま

いました。このワシは、機を織らずに櫛で髪の毛をさわってばかりです。なーんでか？

参考文献

いろはかるた: <http://www1.odn.ne.jp/haru/data-list/karuta.html> (2021/7/18 閲覧)

筒井康隆: ジャックポット. 新潮社, 2021.

令和3年11月

九州保健福祉大学
健康管理センター長
園田 徹

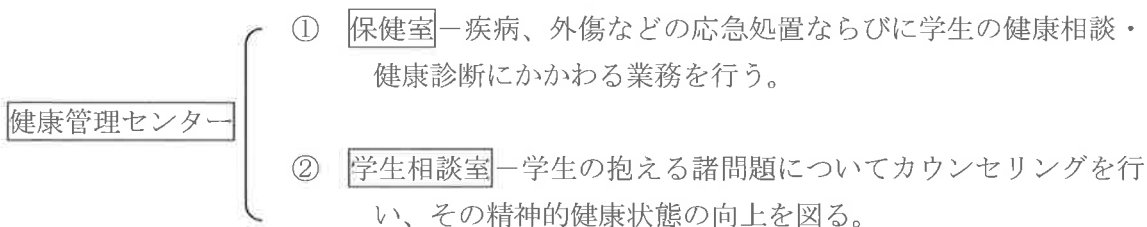
目次

I.	組織構成ならびに構成員	1
II.	学生相談室の利用状況と今後の課題	2
III.	保健室の利用状況と今後の課題	4
IV.	付録	7
	1. 新型コロナウイルス感染症対応マニュアル		
	2. 学内AED設置場所		

I 組織構成ならびに構成員

1. 組織構成

平成18年度までは、健康管理センターは主として学生相談のみを実施してきたが、平成19年度に機構改編を行い、従来の業務である学生相談業務に保健業務も加え、学生の心身の問題に包括的に取り組める体制となった。



2. 令和2年度構成員

構成員は以下のとおりであり、それぞれの専門領域に応じて学生相談室業務と保健室業務を分担して実施した。

- ・センター長 園田 徹
- ・専門委員 佐藤 圭創
- （学生相談） 田中 陽子
- 前田 直樹
- 貫 優美子
- 西田 美香
- ・学生相談員 甲斐 十貴枝
- 井上 麗帆
- ・事務職員 加藤 泰輔（学生課と兼務）

II 学生相談室の利用状況と今後の課題

1. 学生相談室の利用状況

令和2年度の学生相談室の利用者は、実数合計32件、延べ数合計が96件で前年度よりも実数は増加し、延べ数は減少した。相談件数は10月、12月が最も多く、次いで11月、7月であった。相談内容は、前年に引き続き「健康問題」と「適応問題」が多くなっている。今年度は特に「健康問題」に関する相談が多く、来談者の6割が主訴として挙げた。「健康問題」は、前期では7月、後期では10月から12月に来談者数が多くなった。一方、「適応問題」は、前年度よりも減少傾向となったが、主訴別では1年を通して2番目に多い相談数となった。また、女子の相談が実数で男子の2倍、延べ数で3倍となり、前年度同様に女子の利用が多かった。男子の相談利用は、前年度と比較すると、実数、延べ数ともに微増傾向となっている。学部別の利用者では、薬学部が最も多く、次いで社会福祉学部、保健科学部、生命医科学部、臨床心理学部であった。学年別の利用者数では、3年次の利用が非常に多く、1年次の利用が多かった前年度の傾向と異なった傾向を示した。

2. 今後の課題

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症により、前期授業開始の延期や遠隔授業が行われたため、4月と5月の来談者数は0であった。6月に対面授業が開始され、夏季休業も短縮された。また、後期では、再び1月に遠隔授業の措置が取られた。したがって、今年度は前年度までのデータ比較が容易ではないが、今年度の特徴として「健康問題」に関する相談が多かった点が挙げられる。これまでに指摘されてきている精神科に通院している学生や服薬している学生の増加に加え、ストレス耐性が低い学生や、適切なストレス対処が難しい学生にとって、大学生活、コロナ禍で生じる変化、現場実習や就職活動といった新たな環境への適応場面から精神的な健康問題が生じた可能性がある。また、ストレスがかかる場面において、腹痛や吐き気、胸のつかえといった身体症状を訴える健康問題の相談が、今後も増加すると考えられる。したがって、これまで以上に適応スキル習得や心理的柔軟性を高めることを目指した学生相談が求められる。

以上のことから、健康管理センターは、今後も多様な問題を訴える学生に対し、問題の早期発見を目指し、早期に解決できる支援体制を整備することが求められる。そして、学生一人一人のもつ能力を引き伸ばし社会に適応できる人材養成のために、学内外の機関と連携し、問題発生の子防的アプローチも必要となるだろう。

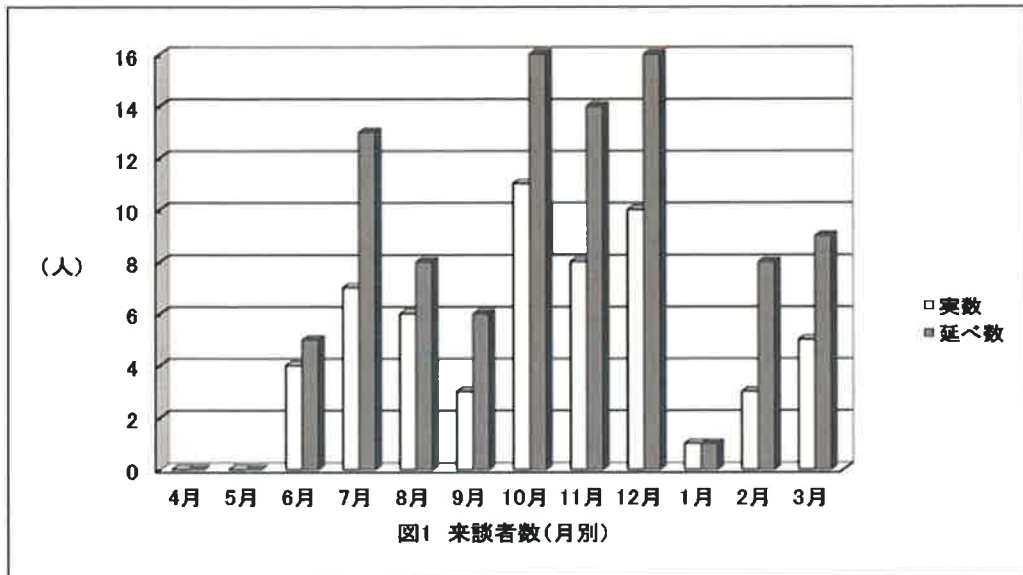
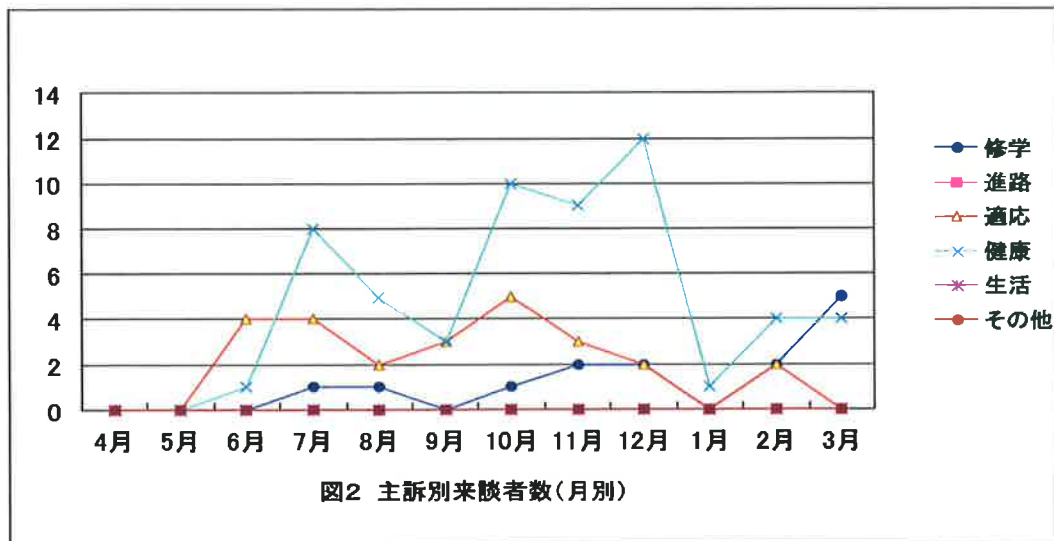


表1 学部別学年別来談者数(年間)

		1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次	通信他	実数合計	延べ数合計
社会福祉学部	男				1				1	1
	女	1	2	4	1				8	27
保健科学部	男			2					2	2
	女			2					2	3
薬学部	男	1	2	2		1			6	16
	女	1	3	3	2				9	41
生命医科学部	男				1				1	3
	女				1				1	1
臨床心理学部	男	1							1	1
	女	1							1	1
合計	男	2	2	4	2	1			11	23
	女	3	5	9	4				21	73
	計	5	7	13	6	1			32	96



井上 麗帆

Ⅲ 保健室の利用状況と今後の課題

1. 保健室の利用状況

令和2年度の保健室利用者総数（累計）は351名（学生276名、教職員70名、その他5名）で前年度より238名の減少であった。

所属別の利用状況は社会福祉学部36%、保健科学部10%、薬学部25%、生命医科学部5%、臨床心理学部3%、教職員の割合は20%であった。（図3.表3）

月別の利用者数は、どの月も前年度より減少した。前期の授業（遠隔授業）開始が5月、対面授業の開始が6月からだったため、4、5月の利用者は数名であった。1月も月の大半が遠隔授業となり、前年度の半数以下で内科症状、外科症状の数は一桁であった。（図4）

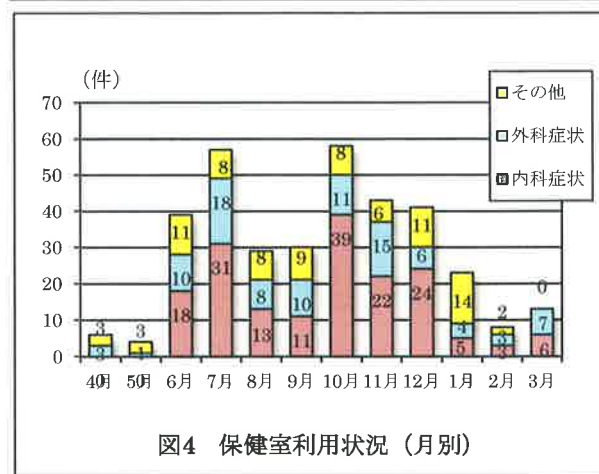
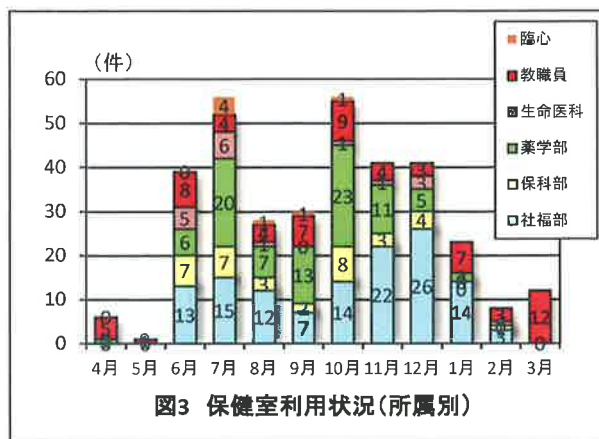
症状別では風邪症状が激減した。精神的不調は前年度より減少したが、創傷、その他、身体測定他に次いで多かった。今年度の特徴として、検温での利用が多く身体測定他の数が増加した。軽度の体調不良でも発熱の有無を確認しに来る学生が多かった。また、前年度に引き続き休み時間や空き時間に来室し話をしていく学生も多く、その他の利用数の多さにつながっている。（図5）

曜日別では、今年度も若干、週初めが多かった。時間帯別では前年度同様、1限終わり、昼休みが多かった。

休養者は85名（前年度153名）であった。前期は対面授業開始後の6、7月の増加が見込まれたが前年度よりも減少した。後期は1月を除き前年度と大差はなかった。（表2）過換気症候群、精神的不調での利用者の休養率は40%（前年度34%）であり増加した。

2. 今後の課題

令和2年度は前年度2月からの新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けた年であった。遠隔授業や行事の延期や中止、新しい生活様式など今までに経験したことのない中で落ち着かない日々を過ごした。日常の変化は大きなストレス要因である。近年、精神的不調での利用は増加傾向であるが、今後、コロナ禍においてさらに増加する可能性は高いと思われる。健康維持のための情報を発信しながら、これまで以上に利用しやすい雰囲気づくりに努め、心身の休養できる場所、気持ちを吐露できる場所としての役割をし、学生が抱える諸問題に対しては学科、各部署と情報共有し、早期対応していく必要があると考える。



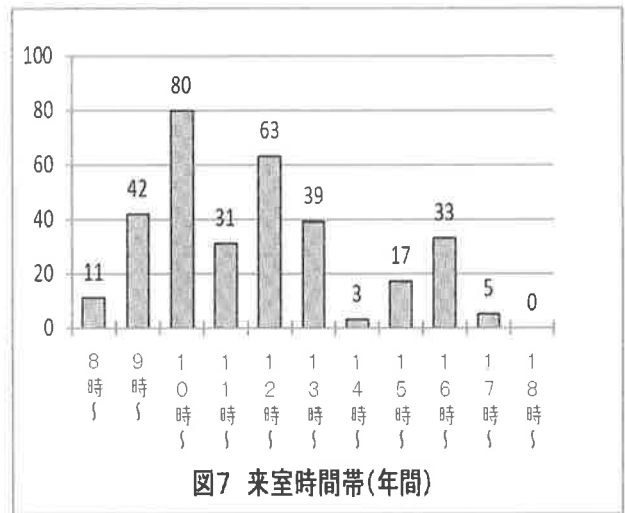
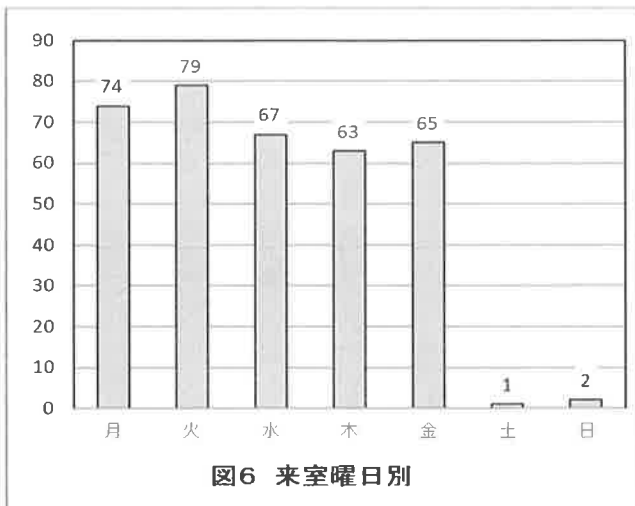
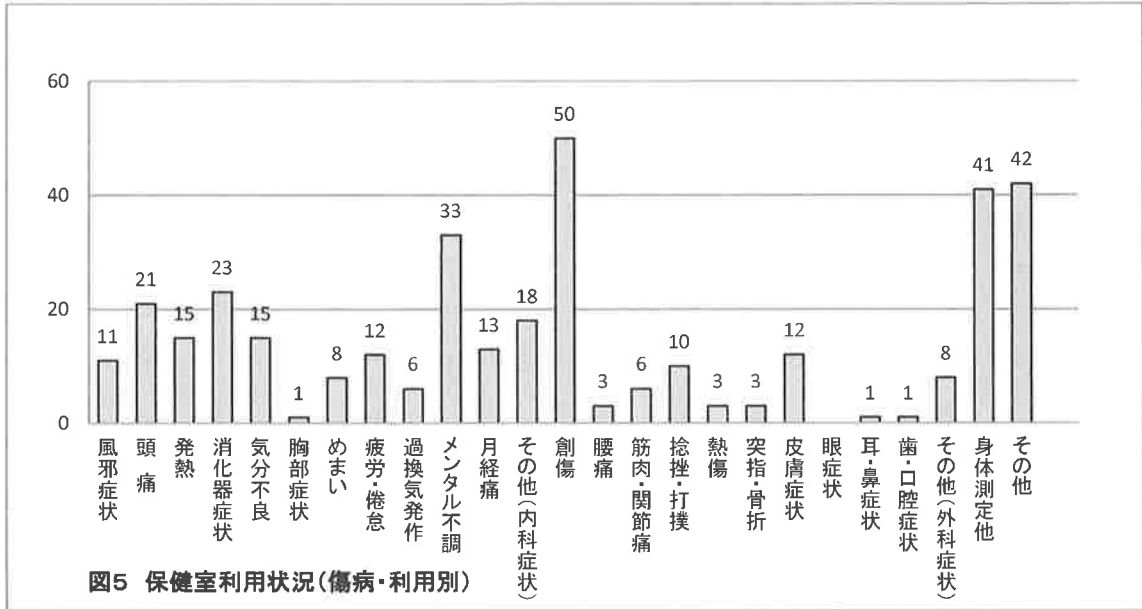


表2 ベッド休養処置・受診及び受診勧告件数

月	休養	受診	受診勧告
4月	0	0	0
5月	0	0	0
6月	11	1	0
7月	12	3	2
8月	4	3	0
9月	6	1	0
10月	19	1	4
11月	15	4	1
12月	16	2	2
1月	2	1	0
2月	0	1	0
3月	0	0	0
計	85	17	9

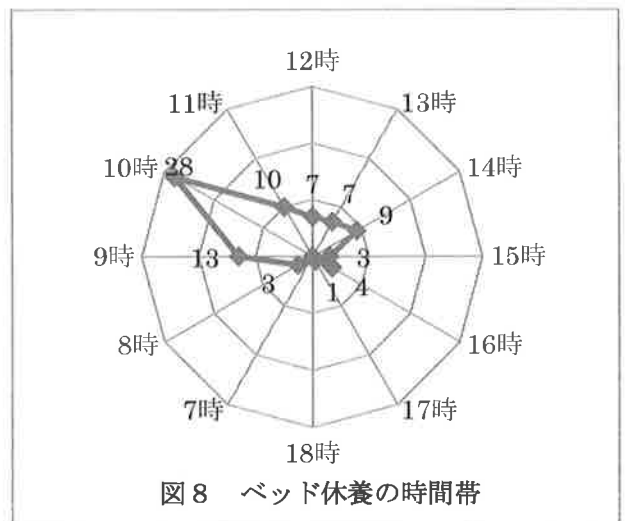


表3 令和2年度保健室利用状況

社会福祉学部

	内科症状		外科症状		その他		合計
	男	女	男	女	男	女	
4月	0	0	0	0	0	0	0
5月	0	0	0	0	0	0	0
6月	4	4	0	1	3	1	13
7月	6	5	2	1	0	1	15
8月	5	0	1	1	5	0	12
9月	0	1	1	1	2	2	7
10月	2	7	0	1	2	2	14
11月	0	9	5	4	2	2	22
12月	2	12	1	0	10	1	26
1月	0	2	0	0	11	1	14
2月	0	1	0	0	2	0	3
3月	0	0	0	0	0	0	0
合計	19	41	10	9	37	10	126

薬学部

	内科症状		外科症状		その他		合計
	男	女	男	女	男	女	
4月	0	0	0	0	1	0	1
5月	0	0	0	0	0	0	0
6月	0	3	0	1	0	2	6
7月	0	9	3	5	2	1	20
8月	1	3	0	1	1	1	7
9月	0	7	0	3	1	2	13
10月	4	11	2	2	4	0	23
11月	2	7	0	1	0	1	11
12月	1	4	0	0	0	0	5
1月	0	1	0	0	0	1	2
2月	0	0	0	0	0	0	0
3月	0	0	0	0	0	0	0
合計	8	45	5	13	9	8	88

保健科学部

	内科症状		外科症状		その他		合計
	男	女	男	女	男	女	
4月	0	0	0	0	0	0	0
5月	0	0	0	0	0	0	0
6月	0	2	4	0	1	0	7
7月	1	3	1	1	1	0	7
8月	0	1	1	1	0	0	3
9月	0	1	1	0	0	0	2
10月	4	4	0	0	0	0	8
11月	3	0	0	0	0	0	3
12月	2	1	1	0	0	0	4
1月	0	0	0	0	0	0	0
2月	0	0	0	1	0	0	1
3月	0	0	0	0	0	0	0
合計	10	12	8	3	2	0	35

生命医科学部

	内科症状		外科症状		その他		合計
	男	女	男	女	男	女	
4月	0	0	0	0	0	0	0
5月	0	0	0	0	0	0	0
6月	1	2	1	1	0	0	5
7月	0	4	0	2	0	0	6
8月	0	1	0	0	0	0	1
9月	0	0	0	0	0	0	0
10月	0	1	0	0	0	0	1
11月	0	0	0	1	0	0	1
12月	1	1	0	1	0	0	3
1月	0	0	0	0	0	0	0
2月	0	0	1	0	0	0	1
3月	0	0	0	0	0	0	0
合計	2	9	2	5	0	0	18

臨床心理学部

	内科症状		外科症状		その他		合計
	男	女	男	女	男	女	
4月	0	0	0	0	0	0	0
5月	0	0	0	0	0	0	0
6月	0	0	0	0	0	0	0
7月	0	1	0	2	0	1	4
8月	0	1	0	0	0	0	1
9月	1	0	0	0	0	0	1
10月	1	0	0	0	0	0	1
11月	0	1	0	1	0	0	2
12月	0	0	0	0	0	0	0
1月	0	0	0	0	0	0	0
2月	0	0	0	0	0	0	0
3月	0	0	0	0	0	0	0
合計	2	3	0	3	0	1	9

教職員

	内科症状		外科症状		その他		合計
	男	女	男	女	男	女	
4月	0	0	0	3	0	2	5
5月	0	0	1	0	0	3	4
6月	1	1	0	2	3	1	8
7月	0	1	0	1	0	2	4
8月	0	1	1	1	0	1	4
9月	0	1	1	3	2	0	7
10月	0	5	2	2	0	0	9
11月	0	0	3	0	0	1	4
12月	0	0	1	2	0	0	3
1月	0	2	0	4	1	0	7
2月	1	1	1	0	0	0	3
3月	3	2	6	1	0	0	12
合計	5	14	16	19	6	10	70

その他

	内科症状		外科症状		その他		合計
	男	女	男	女	男	女	
4月	0	0	0	0	0	0	0
5月	0	0	0	0	0	0	0
6月	0	0	0	0	0	0	0
7月	0	1	0	0	0	0	1
8月	0	0	1	0	0	0	1
9月	0	0	0	0	0	0	0
10月	0	0	0	2	0	0	2
11月	0	0	0	0	0	0	0
12月	0	0	0	0	0	0	0
1月	0	0	0	0	0	0	0
2月	0	0	0	0	0	0	0
3月	0	1	0	0	0	0	1
合計	0	2	1	2	0	0	5

総計(男女/症状別)

	内科症状		外科症状		その他		合計
	男	女	男	女	男	女	
4月	0	0	0	3	1	2	6
5月	0	0	1	0	0	3	4
6月	6	12	5	5	7	4	39
7月	7	24	6	12	3	5	57
8月	6	7	4	4	6	2	29
9月	1	10	3	7	5	4	30
10月	11	28	4	7	6	2	58
11月	5	17	8	7	2	4	43
12月	6	18	3	3	10	1	41
1月	0	5	0	4	12	2	23
2月	1	2	2	1	2	0	8
3月	3	3	6	1	0	0	13
合計	46	126	42	54	54	29	351

総計(所属別)

	社福部		薬学部		生命医科		臨床		教職員		他	合計
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女		
4月	0	0	1	0	0	0	5	0	0	0	6	
5月	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	4	
6月	13	7	6	5	0	8	0	0	0	0	39	
7月	15	7	20	6	4	4	1	0	0	0	57	
8月	12	3	7	1	1	4	1	0	0	0	29	
9月	7	2	13	0	1	7	0	0	0	0	30	
10月	14	8	23	1	1	9	2	0	0	0	58	
11月	22	3	11	1	2	4	0	0	0	0	43	
12月	26	4	5	3	0	3	0	0	0	0	41	
1月	14	0	2	0	0	7	0	0	0	0	23	
2月	3	1	0	1	0	3	0	0	0	0	8	
3月	0	0	0	0	0	12	1	0	0	0	13	
合計	126	35	88	18	9	70	5	0	0	0	351	

(甲斐 十貴枝)

IV 付録

- 1 九州保健福祉大学
新型コロナウイルス感染症対応マニュアル
- 2 AED 設置マップ

九州保健福祉大学新型コロナウイルス感染症対応マニュアル

このマニュアルは、本学関係者（学生、教職員等）が新型コロナウイルス感染症に感染した場合に、「九州保健福祉大学における新型コロナウイルス感染症への対応ガイドライン」に基づき、本学が取るべき感染防止対策を作成したものです。

関係者の皆様はこのマニュアルを基本に対応してください。

1. 1次対応（感染の連絡があった場合）

- ①関係者から感染報告を受けた場合は、直ちに庶務課緊急対策本部（以下、緊急対策本部という。）へ報告する。
- ②報告を受けた緊急対策本部は、学長に報告する。
- ③報告を受けた学長は、緊急対策本部に緊急対策会議（構成員；学長、副学長、事務局長、庶務部長又は次席、教務部長又は次席、学生部長又は次席、）の招集を指示する。
- ④学長は、緊急対策本部長（庶務部長）より延岡保健所への報告を指示する。
- ⑤緊急対策本部長は、延岡保健所に報告するとともに、保健所と対応（休校期間、立ち入り禁止区域、消防等）を協議する。
- ⑥保健所から指示を受けた緊急対策本部長は、学長が緊急要請した緊急対策会議において、内容を報告する。
- ⑦学長は、緊急対策会議の意見を聴いたのち、大学の対応策（休講措置、立ち入り禁止区域、消毒場所等）を決定する。
- ⑧学長は、感染状況および決定した大学の対応内容について、理事長に報告し承認を得る。事務局長は法人本部に報告する。
- ⑨学長は、決定内容を事務局長および緊急対策本部長へ指示する。
- ⑩指示を受けた事務局長は、緊急事務部門長会議（ミーティングメンバー）を開催し各部門長に対応策を指示する。

2. 2次対応（保健所からの休講や立ち入り禁止指導があった場合）

- ①各部門長は、事務局長からの指示に沿って部署を挙げて緊急対応を実施する。
 - ・教務課
学内閉鎖となった場合は、ガルーンや電話を活用し、教員や学生へ感染状況と閉鎖場所、期間等を連絡する。
遠隔授業実施の通知をする。
 - ・学生課
ユニパで学生に感染状況および閉鎖場所、期間等を通知する。

課外活動の禁止通知をする。

不要不急の外出を控え、自宅待機を指示する。

学生および保護者からの問い合わせに対応する。

・就職課

就活中の学生への指示および相手企業に連絡する。

・入試広報室

学園本部と協議し大学HPで情報公開する。

情報公開によるマスコミ対応をする。

・庶務部

校内放送にて学生および教職員へ帰宅指示する。

売店・食堂および出入り業者へ立ち入り禁止等について通知する。

立ち入り禁止区域に看板等の設置をおこなう。

学長と協議の上、全面立ち入り禁止時の出勤者を決め通知する。

・緊急対策本部

守衛室へ対応を依頼する。

延岡市役所企画課へ報告する。

※感染状況の通知は、感染者の人権への配慮と個人情報保護を考慮し、対策会議で決定した最小限の内容にとどめる。

3. 3次対応（感染者の詳細が判明した場合）

①感染者の学内行動調査および学内の濃厚接触者および接触者調査をおこなう。

・緊急対策本部

学内行動調査を基に消毒場所を保健所と協議する。

学内消毒を実施する。（業者選定を含む。）

学外者からの問い合わせに対応する。

・庶務部

教員または、出入り業者が感染した場合に学内行動調査する。

教員が感染した場合は、家族等を含めフォローする。

売店・食堂や出入り業者からの問い合わせに対応する。

・教務課

学生が感染した場合は、学生課と協力のもと感染者の学内行動調査を調査する。

遠隔事業の実施状況を管理する。

学生課と協力し、学生および保護者からの問い合わせに対応する。

・学生課

学生が感染した場合の学生をフォローする。

教務課と協力し、学生および保護者からの問い合わせに対応する。

4. 事後対応

①各所への終了報告をおこなう。

・緊急対策本部

学長へ終了報告する。

保健所へ終了報告する。

学長は、理事長に終了報告する。

事務局長より法人本部へ終了報告する。

②学長は、必要に応じて緊急対策会議を開催し、授業再開について協議決定する。

感染者の情報管理を協議する。

学長は、緊急対策会議で決定した内容を各部署へ通達する。

・教務課

学長からの通達内容を学生課と協力し、学生および教員へ通達する。

感染者の情報対応を学生課と

遠隔授業から対面授業への切り替えについて学長の指示を仰ぎ決定する。

・庶務部

学長からの通達内容を教職員へ通達する。

教務課と協力の上、文部科学省へ報告する。

売店・食堂や出入り業者と授業再開後の対応について協議する。

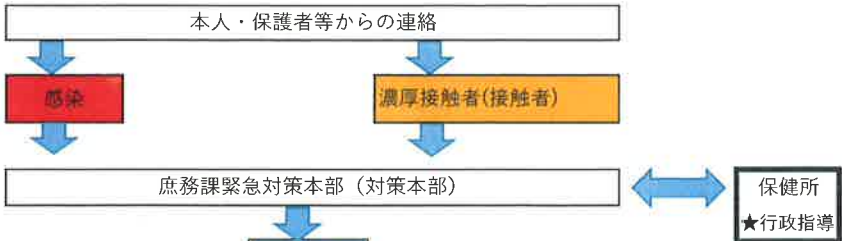
・入試広報課

マスクミからの問い合わせに対応する。

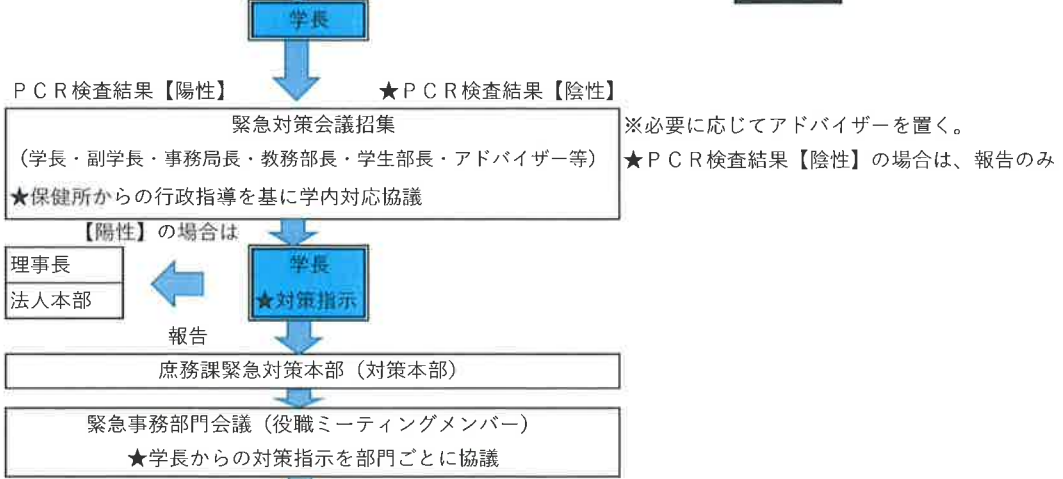
以上

九州保健福祉大学新型コロナウイルス感染症対応フロー表

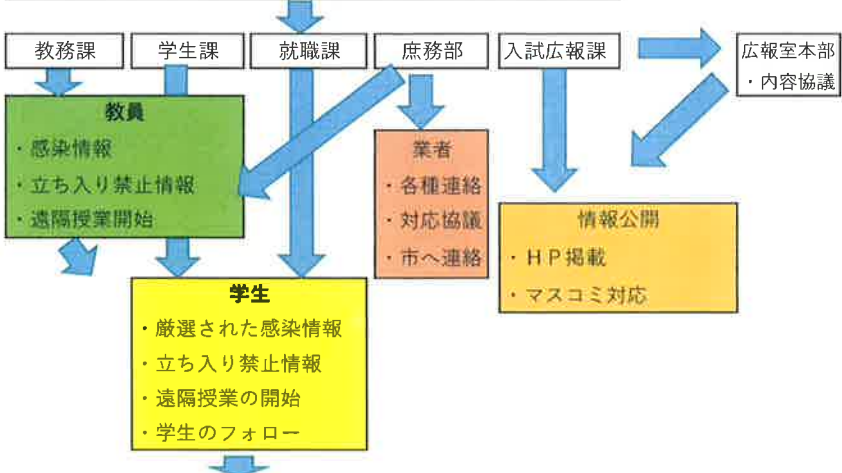
事象発生



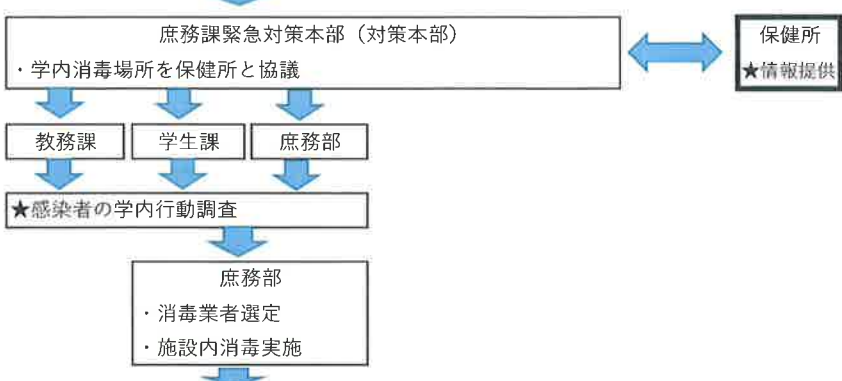
1次対応 (感染者発生情報を受け)



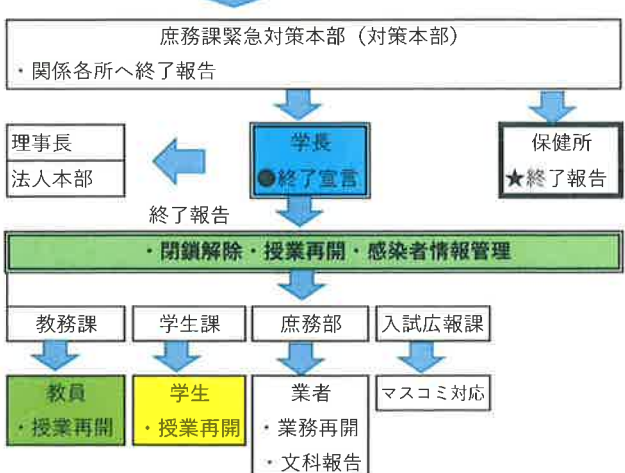
2次対応 (立ち入り禁止等措置)



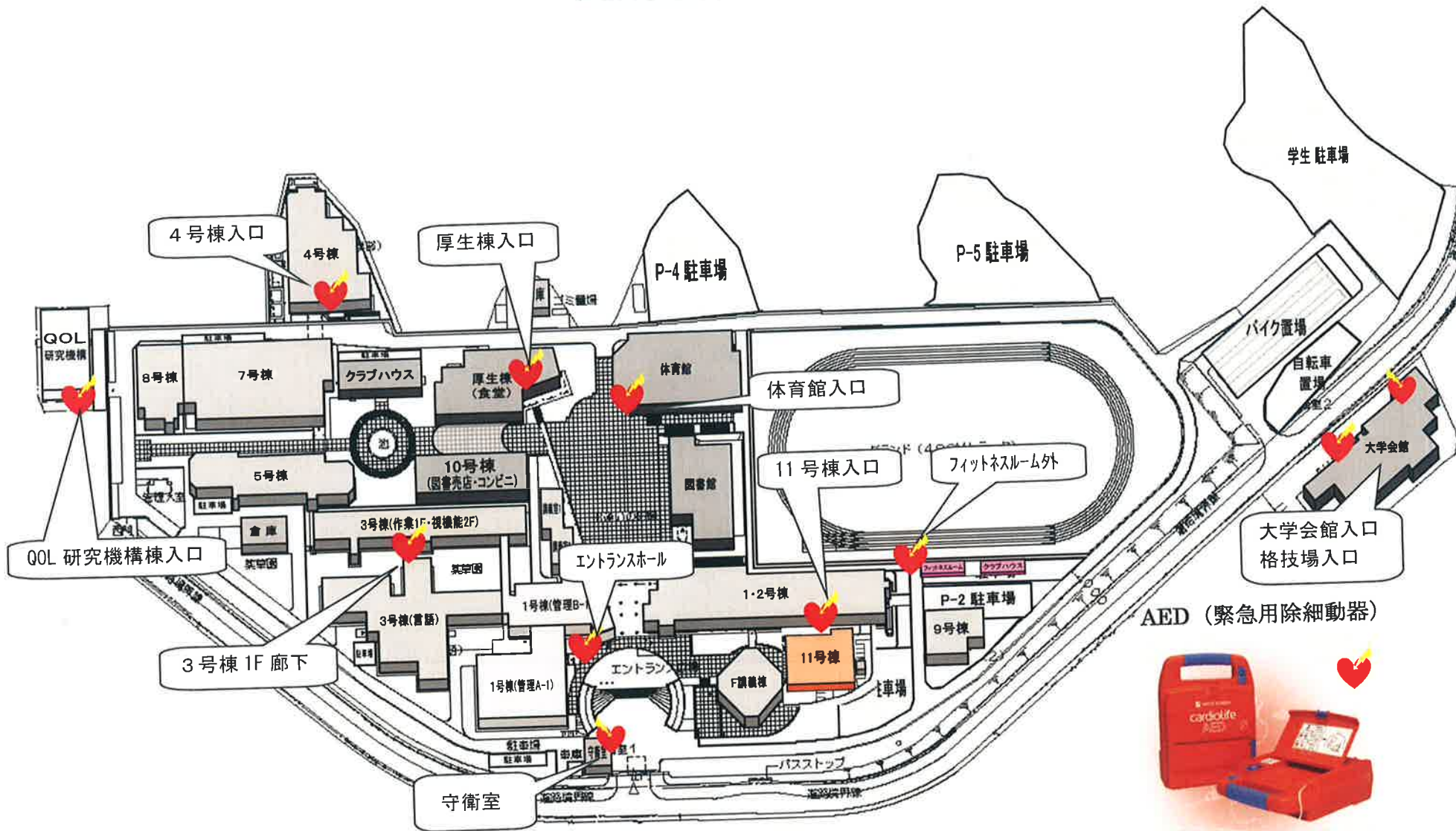
3次対応 (詳細判明)



事後対応



AEDマップ



AED (緊急用除細動器)



九州保健福祉大学

令和2年度 健康管理センター 活動報告書

令和3年11月発行

表紙装丁 甲斐 十貴枝

写真 加藤 謙介（臨床心理学部 准教授）

発行者 九州保健福祉大学 健康管理センター

〒882-8508 宮崎県延岡市吉野町 1714-1

TEL 0982-23-5555（代表）

印刷所



九州保健福祉大学
令和2年度
健康管理センター 活動報告書